

## 住宅分野における建設技能者の持続的確保懇談会とりまとめ 骨子（案）

## 1. はじめに

脱炭素、まちづくり、子育て支援、Well-being、災害発生時の住まいの確保等の社会的要請や消費者ニーズの観点から、住まいに求められる性能が上がっており、住宅の供給・維持管理に携わる大工等の担い手の役割も増えている一方で、担い手の高齢化等から、今後、住宅の安定的な供給や適切な維持管理が困難となることが懸念されている。

このため、国土交通省では、質の高い住まいの安定的な供給・適切な維持管理が行われる社会の実現に向けて、「住宅建設技能者」に焦点をあて、有識者・関係団体等から幅広く御意見を伺うため、「住宅分野における建設技能者の持続的確保懇談会」を開催した。本骨子はその御意見を整理し、とりまとめたものである。

## 2. 住宅分野における建設技能者等の現況と今後の見通し

## (1) 住宅分野における建設技能者等の現況

- 木造住宅の担い手である大工就業者数は、令和 2 年に約 30 万人と、20 年間で半減。
- 人数の減少率と高齢化(60 歳以上の比率)は、建設業従業者(全体)に比べて大きい。
- 10 代、20 代の若手大工就業者の人数及び割合は地域ごとにばらつきがある。
- 各都道府県において、10 代は 0 人～200 人(平均 46 人)、20 代では 60 人～1,190 人(平均 409 人)。 等

## (2) 今後の見通し

- 2015 年～2020 年のコーホート変化率を用いた将来推計では、2035 年には大工就業者数が約 15 万人と、2020 年から約半減するという推計がある。
- 建設技能者全体の推計では、2030 年以降 50 代以上が約 6 割である一方、大工では約 7 割が 50 代以上になるという推計もあり、今後も大工の年齢層は建設技能者全体と比べても高い傾向が続く可能性。
- 地域によって、今後の大工の高齢化や減少の傾向が異なる。 等

## 3. 取り組むべき課題

質の高い住まいの安定的な供給・適切な維持管理が行われる社会の実現に向けて、住まい供給の担い手である住宅分野の建設技能者の確保が必要となるが、そのためには、まずは住宅分野の建設技能者になる入り口の「入職者の増加」、次に技能者の定着を進め、離職率を減らすための「職場環境や将来見通しの整備」が必要と考えられる。また、それらの取組を行ってもなお、担い手が不足することが考えられるため、「住宅建設の省力化・効率化」を図る必要がある。

### (1) 入職者の増加

#### ○新規入職者の確保推進

(想定される取組の例)

- ・若年層に向けた住教育の一層の推進によるモノづくりの魅力発信（住宅建設技能者の重要性もあわせて教育）
- ・建設業界と教育機関の連携強化（工務店による実技指導、教員の教える力の向上等）
- ・業界横断的な入職者確保に向けた取組を支援する協議会の整備
- ・既存の訓練制度の活用も含めた入職前教育訓練制度の整備
- ・地域工務店が共同で取り組む入職後教育の推進

#### ○女性の入職促進

(想定される取組の例)

- ・働きやすい住宅生産現場の実現（住宅版快適トイレの普及等）
- ・体格差等を懸念せずに作業できる工程の明確化

#### ○外国人労働者の入職促進

#### ○リフォーム技術を持った技能者の確保・育成

### (2) 職場環境の整備

#### ○地域工務店の経営者の意識改革・経営基盤強化

(想定される取組の例)

- ・経営者向け共同研修の実施
- ・複数工務店による協力業者会の運営・職方の共有・共通化、バーチャルカンパニー化

#### ○他産業に劣らない就労環境整備（正規雇用、月給制、週休二日、年次休暇、社会保険）

#### ○社員大工化の促進

(想定される取組の例)

- ・地域工務店が社員大工化に取り組むインセンティブの整理
- ・地域工務店が共同で取り組む入職後教育の推進（再掲）

### (3) 将来の見通しの整備

#### ○住宅建設技能者のキャリア形成の見える化

(想定される取組の例)

- ・CCUSの登録促進
- ・住宅建設技能者の役割（クリエイターとオペレーター）に応じたキャリアパス整備  
(技能者、技術者相互の転身を含む多様なキャリアパスの提示等)

#### ○日本人を含めた住宅建設技能者のキャリア育成プランの整備と普及

#### ○新たな時代に応じた工務店のビジネスモデルや働き方のロールモデルの提示

(4) 生産性向上に向けた省力化・効率化

○現場作業・管理の省力化・効率化の推進

(想定される取組の例)

- ・ DX ツールを活用した事務支援の省力化・効率化
- ・ AI を活用した現場作業の効率化 (人材育成も含む)
- ・ 業界全体 (川上～川下まで) のフローの最適化

5. おわりに

今後の展開として、本懇談会でとりまとめた現況・今度の見通しや取り組むべき課題を踏まえ、今後目指すべき将来像や取組の方向性を整理した「住宅建設技能者の持続的確保に向けた中長期ビジョン (仮称)」の策定等が必要ではないか。